

【通常の学級における特別支援教育の視点を踏まえた学習指導案】

国語科学習指導案

庄原市立東城小学校
指導者 香川 和彦

- 1 日 時 平成21年2月3日(火)
- 2 学 年 第3学年 37名
- 3 単元名・教材名 広げよう 斎藤隆介ワールド 「モチモチの木」

4 単元について

○児童観

本学級の児童は、これまでの学習の中で、文学的文章における特徴的な表現（比喩、対比、文末表現など）や場面の様子を表す情景描写などに着目しながら、イメージを広げ、人物の心情を想像しながら読むことを行ってきた。しかしながら、自力でその表現を見付け、叙述を文脈の中に位置付けて、場面の移り変わりや情景を想像しながら読む力は十分に身に付いていない。その原因は、主人公の言動に対する叙述への意識が強く、特徴的な表現や情景描写などの叙述を、文脈の中に位置付けイメージを膨らませることが難しいと考えられる。

考えを交流し合い、一人一人の感じ方の違いに気付く力については、考えを発表することにとどまり、叙述を基にそれを深め合うところまでには至っていない。友だちの発表を自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点を明確にしながら、つないで発言していく力をつける必要がある。

A児については、正しい発音でつまらず文章を読むことが難しい。漢字の読みや言葉のまとまりの理解に課題がある。一方で、指導者や友だちの音読など耳から入ってくる情報についての理解はできる。読み取っていく学習における自力解決になると、自力で考えていくことが難しく意欲に欠けるという実態がある。音読指導や個に応じたワークシートなどで自力解決を支援してきた。

B児については、授業中、周囲の様々なところに注意が向き、なかなか集中できなかつたり、やるべきことが分からなくなり活動が停滞したりしがちである。学習の始めに、準備物を確認したり、見通しをもたせたりしながら支援をしているところである。

○単元観

学習指導要領において、中学年の「C読むこと」の指導事項（ウ）に「場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。」、指導事項（エ）に「読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」とある。

本単元は、場面の移り変わりや情景を叙述に即して想像しながら読むことをねらいとする。また、この作品の優れた描写や表現の工夫に触れるとともに、斎藤隆介の他の作品を読み広げることで、物語を読み味わい、主体的に読書しようとする態度を育てることをねらいとする。

本教材「モチモチの木」は、臆病な豆太が、病気のじさまを救うために信じられないほどの勇気を発揮し、「勇気のある子ども」しか見ることでできないモチモチの木の灯を見ることができたというお話である。けれども、じさまが元気になった後の豆太は、やっぱり元の臆病な豆太であるという終末で閉じられている。語り手の特徴的な表現や対比、各場面に豊かな情景描写などが効果的に使われていることから、場面から場面への移り変わりに注意し、人物の心情の変化を想像しながら読む力を高めるのに適した教材である。また、その読む力を活用し、斎藤隆介の他の作品を読み広げることを通して、主体的に読書をする態度を育てる単元構成を考えた。

○指導観

指導に当たっては、次の三点に留意する。

一点目は、語り手の視点から描かれている特徴的な表現や情景描写を的確にとらえさせ、豆太の心情の想像につなげていくことである。学習課題や発問などで、特徴的な表現や情景描写に対する意識を高める。また、音読や視写を取り入れて、言葉の使われ方に着目させる。そして、豆太の心情とそれらの叙述を重ね合わせながらより豊かに想像できるように支援する。

二点目は、挿絵を活用したり、動作化を取り入れたりして、言葉のイメージを膨らませることである。その言葉や文だけを取り上げ、考えるのではなく、文脈の中で位置付けるということを意識しながら読み進めていきたい。

三点目は、物語前半の状況設定を十分につかませることである。このことが話の展開の読み取りや場面の移り変わりの想像に大きく影響してくる。ワークシートを活用しながら、豆太日記を書かせ、人物像を明確につかませるとともに、じさまやモチモチの木との関係もしっかり押さえたい。

「支援を必要とする児童に焦点を当てた授業づくり」としては、

- 音読を積極的に取り入れる。多様な読み方で読ませ、意欲の喚起を図りながら継続して練習させる。
- また、斎藤隆介の他の作品を読み広げる学習の前には、読み聞かせも行う。
- 個に応じたワークシートを用意し、学習意欲の喚起を図る。
- 1時間ごとの学習の流れを視覚的に示し、見通しをもたせる。また、学習に必要なものだけを机の上に用意させ、集中できる環境を整えさせる。

「言語技術を生かした学習指導の工夫」としては、

- 叙述を基に根拠を明確にして、自分の考えを発表させる。また、挿絵と文をつなげて考えさせる。
(情報を的確に分析する技術)

5 単元目標

- 斎藤隆介の作品に興味をもち、意欲的に読み、自分の考えを書いたり、話し合ったりしようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 本の紹介という目的を理解して、適切に書く。
(B書くこと ア)
- ◎ 特徴的な表現や情景描写などに気を付けながら、人物の内面やその変化、各場面の情景を、叙述を基に想像しながら読む。
(C読むこと ウ)
- 表現したり理解したりするために必要な語句を増やし、文中での使われ方や働き、表現の役割を理解する。
(言語事項(1)エ(ア))

6 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
①斎藤隆介の作品を進んで読もうとしている。 ②特徴的な表現や情景描写などに気を付け、読み取ったことを基に、進んで表現しようとしている。	①読んだ本を紹介するという目的を理解し、適切に紹介カードを書いている。	①場面と場面の関係に注意して、豆太の心情の変化を、叙述を基に想像しながら読み取っている。	①本文で使われている様々な表現方法や語りの文体を理解している。

7 指導と評価の計画(全11時間)

次	学習内容	評価					
		関意	書く	読む	言語	評価規準 ※言語技術の視点	評価方法
一	・斎藤隆介の作品が数多くあることを知り、学習計画を立てる。 ・教材文「モチモチの木」を通読し、最も心に残ったことを中心に感想を話し合う。 (1/11)	◎				・斎藤隆介の作品に興味をもち、進んで読もうとしている。	発表 ノート

	・「物語文・読みの十の観点」を基に、構成や設定などをたしかめ、音読練習をする。(2/11)	◎			○	・作品の構成や設定などを書きまとめ、進んで音読している。 ・語りの文体を理解し、音読している。	ワークシート 音読
二	・「おくびょう豆太」の場面を読み、豆太とじさまの性格や二人の関係を読み取る。(3/11)			◎		・情景描写と人物の言動を基に、人物の性格や関係を読み取り、書いている。 ※情報を的確に分析する技術	発表 ワークシート ノート
	・「やい、木い」の場面を読み、モチモチの木と豆太・じさまの関係を読み取る。(4/11)			◎		・情景描写と人物の言動を基に、人物の性格や関係を読み取り、書いている。 ※情報を的確に分析する技術	発表 ワークシート ノート
	・「霜月二十日のばん」の場面を読み、「山の神様のお祭り」に対するじさまと豆太の気持ちを想像しながら読む。(5/11)			◎		・人物の言動を基に、「山の神様のお祭り」に対する人物の心情を読み取り、書いている。 ※情報を的確に分析する技術	発表 ワークシート ノート
	・「豆太は見た」の場面を読み、「医者さま」を呼びに走る様子や情景から、豆太の気持ちを想像しながら読む。(6/11) 本時			◎		・情景描写と人物の言動を基に、「医者さま」を呼びに走る豆太の心情を読み取り、書いている。 ※情報を的確に分析する技術	発表 ワークシート ノート
	・「豆太は見た」の場面を読み、峠道を登る医者さまと豆太の様子や情景から、豆太の気持ちを想像しながら読む。(7/11)			◎		・情景描写と人物の言動を基に、峠道を登る豆太の心情を読み取り、書いている。 ※情報を的確に分析する技術	発表 ワークシート ノート
	・「弱虫でも、やさしけりゃ」の場面を読み、じさまの言葉の意味について叙述を基に話し合う。(8/11)			◎		・じさまの言葉と結びついている豆太の言動を読み取り、書いている。 ※情報を的確に分析する技術	発表 ワークシート ノート
三	・斎藤隆介の作品を選んで読み、図書室に斎藤隆介おすすめコーナーを作り、紹介カードを掲示する。(9～11/11)	○		◎	○	・斎藤隆介の他の作品を進んで読んでいます。 ・特徴的な表現や情景描写に気を付けて、人物の心情の変化を読み取っている。 ・読んだ本を紹介するために、心に残った叙述を基に、紹介カードを書いている。	紹介カード 振り返りカード

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- 「医者さま」を呼びに走る豆太の心情について、叙述を基に想像しながら読み取る。

(2) 観点別評価規準

- 情景描写と人物の言動を基に、「医者さま」を呼びに走る豆太の心情を読み取り、書いている。

(読む能力)

(3) 準備物

ワークシート 挿絵 カード (着目させたい表現) ホワイトボード (学習の流れ)

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 ◆支援 (A) ◇支援 (B)	評価規準 【評価方法】
1 本時のめあてを確認し、4場面前半を音読する。 「医者さま」をよびに走る豆太の気持ちをそうぞうしよう。 2 一人読みをする。 ○ 豆太の気持ちや様子がわかる語や文に青線を引きましょう。 ○ 景色や色がわかる語や文に赤線を引きましょう。 ○ 自分が一番心に残ったところから想像したことや思ったことを書きましょう。 3 自分の読みを出し合い、叙述を基に豆太の気持ちを想像し、読み深めていく。 ○ 景色や色がわかる語や文とのつながりを考えながら、豆太の気持ちを想像しましょう。 ことばの力活用POINT 叙述を基に根拠を明確にして、自分の考えを発表する。 4 豆太日記を書く。 ○ 板書を見て、友だちの意見を取り入れながら、豆太になったつもりで書きましょう。 場面の様子を表す語や文、人物の心や様子を表す語や文に注目しながら豆太の心情を想像し、表現する。 考 表 5 ペアで日記を交流する。 聞き手の視点 ・ 景色や色がわかる語や文が入っているか。 ・ 豆太の気持ちや様子がわかる語や文が入っているか。 6 まとめをする。	◇学習に必要なものを一つ一つ確認させる。 ④「学習環境」 ◇学習の流れをホワイトボードで示し、見通しをもたせる。 ○一人読みの視点を与える。景色や色彩をイメージさせる言葉に着目させる。 ◆あらかじめいくつか線を引いたワークシートを用意し、想像させる。 ○自分の心に残った叙述を基に、想像したことを発表させる。話型を示す。 ○挿絵を活用し情景描写に着目させる。 ○必要に応じて動作化を取り入れイメージを膨らませる。 ○着目させたい語り手の特徴的な表現や情景描写を読みの発表の中でおさえ、物語前半までの豆太のじさまを思う強い気持ちを想像させる。 ○友だちの意見のよさ（着目させたい叙述）を取り入れながら、豆太の気持ちを想像して、ノートに日記を書かせる。 ◆一人読みの自分の考えを基に、友だちの意見を付け加えて書くよう助言する。挿絵を見ながら豆太の心情を考えさせる。 ◇学習の流れを活用し、活動内容を確認する。 ○聞き手に視点を与え、チェックさせる。 ◇ペアで確認しながら進めさせる。 ○一人読みの時の自分の考えと豆太日記での考えとの違いを発表させ、読みの深まりを意識させる助言・評価を行う。 ○景色や色をイメージさせる言葉に着目することにより、人物の心情の読み取りが深まることを児童の言葉でまとめさせる。	①「見通し」 ②「視覚」 ⑥「学習意欲」 ②「視覚」 ○情景描写と人物の言動を基に、「医者さま」を呼びに走る豆太の心情を読み取り、書いている。 【ノート】

9 板書計画

なきなき

いたくて、寒くて、こわかった

豆太は、なきなき走った。

足からは血が出た。

霜が足にかみついた。

真っ白い霜

すごい星月

半道もあるふもとの村までー。

はだしで。

ねまきのまんま。

表戸を体でふつとばして

小犬みたいに体を丸めて

真夜中

課題

「医者さま」をよびに走る豆太の
気持ちをそうぞうしよう。

拡大した挿絵

まとめ

- ・じさまを助けたい
- ・はやく医者さまを
- ・よばなくては
- ・いたい、こわい。
- ・でもそんなこと
- ・言ってられない

【学習の流れ】

- ① 音読
- ② 一人読み
- ③ 話し合い
- ④ 豆太日記
- ⑤ ペアで交流
- ⑥ まとめ

モチモチの木 斎藤 隆介

児童への 期待される効果

※ 特別支援教育を視点にした授業改善

視点	これまでの実践例	
① 見通しをもたせる	・学習の流れを決め、それに基づいて授業を行う。	・児童が主体的に動けるようになる。
② 視覚的支援	・算数的活動（計算棒・10のケース等）の実施 ・ペーパーサートの活用 ・電子黒板の活用 ・絵や写真の活用 ・教具の工夫 ・構造的な板書 ☆ チョークの色の統一	・分りやすい。
③ 聴覚的支援	・計算の手順を繰り返し唱える ・音読 ・替え歌 ・リズムとテンポと繰り返しを生かした指導 ・不必要な音を取り除く。	・耳からの刺激で理解が一層深まる。 ・聞く環境が整う。
④ 学習環境整備	・学習規律 ・机の上の整理整頓 ・鉛筆の持ち方 ・机の中の整理整頓 ・姿勢 ☆ 学習規律の再確認と指導	・学習しやすくなる。
⑤ 「言語技術」の活用	・話型の提示 ・絵の分析 ・根拠の明確化 ・主語と文末 ・ナンバリングの活用 ・情報の分析 ・視点を変える等	・表現しやすい。 ・相手に伝わりやすい。 ・思考の育成に有効。
⑥ 学習意欲の喚起	・個に応じたワークシートの作成 ・教材や教具の工夫 (例：好きなキャラクターを活かす。)	・児童が意欲的に学習できる。
⑦ 学習集団づくり	・ペア学習 ・グループ学習 ・つながり発言 ・考えの交流	・学びの質が高まる。